

NO 16	再生可能エネルギーを利用した 建物間融通型エネルギーの面的利用による 省CO <sub>2</sub> 推進モデル事業	東京ガス株式会社		
提案概要	省CO <sub>2</sub> のポテンシャルが大きいが対策の遅れている既築中小規模事務所ビルのCO <sub>2</sub> 削減の一つのモデルを提示するプロジェクト。①エネルギー変換効率の高い太陽熱を高効率かつ最大限活用するため、熱融通導管を通じ隣接するビルと共同で利用するとともに、②熱媒温水の搬送動力を太陽光発電で賄うことで省CO <sub>2</sub> 化を図り、③コージェネレーションシステムにより太陽熱の出力を補完し安定的かつ高効率な利用を行う。④あわせてシステムの最適運用を図るための「見える化」を行う。			
事業概要	部門	技術の検証	建物種別	建築物(非住宅)
	建物名称	東京ガス熊谷ビル/マロウドイン熊谷	所在地	埼玉県熊谷市
	用途	事務所/ホテル	延床面積	10,340 m <sup>2</sup>
	設計者	—	施工者	—
	事業期間	平成21年度～平成23年度		

概評

年間快晴日数で日本のトップクラスという地域特性を活かして中小オフィスビルの太陽熱を隣接ホテルに融通してその有効利用を図り、省CO<sub>2</sub>に繋げる技術の検証プロジェクトで、再生可能エネルギーの利用拡大への試みとして評価できる。地域への見える化を通じて省CO<sub>2</sub>意識を啓発する試みも行われようとしており、自治体との連携によって、類似プロジェクトの出現に繋がることを期待する。なお、ビジネスモデルとして波及性、普及性を持つためには、検証データを活かして、事業の費用対効果を精査し、今後さらなる取り組みがなされることを要望したい。

